

NTT-九州大学基礎科学共同研究プログラム 審査要領

平成29年6月

I 審査方法について

(1) 審査方法

書面、ヒアリングの順に審査を行う。

(2) 書面審査

イ. 書面審査は、本プログラムの選定委員会（以下「委員会」という。）委員が評定する。ただし、必要に応じて委員会委員以外の者を審査者に加えることができる。

ロ. 審査者は、(4)の評定要素ごとに示す観点に基づき、申請書類により審査を行う。

(3) ヒアリング審査

イ. ヒアリング審査は、委員会委員が評定する。

ロ. 審査者は、(4)の評定要素ごとに示す観点に基づき、申請書類、プレゼンテーション及び質疑応答の内容を総合的に判断し審査を行う。

ハ. 委員会は、審査結果を基にして、広い立場から総合的に必要な調整を行うことを主眼として、合議により採択課題を決定する。

(4) 各審査における評定要素及び総合評点の評定基準は次のとおりとする。

【評点要素】

次の①から③までの各評点要素について評定を付す。

① 研究の学術的な特色と見込まれる成果の意義及び新たに得られる学問上の知見と基礎科学に与える影響

- ・ 研究対象・研究手法やもたらされる研究成果等について、独創性や革新性が認められるか。
- ・ 基礎科学に興味深い影響を与えうる先駆的な研究課題であるか。
- ・ 当該研究分野又は関連研究分野の進展に対する大きな貢献、新しい学問分野の開拓等、学術的な波及効果が期待できるか。

② 研究計画・方法の妥当性・研究遂行能力

- ・ 構想、目的が具体的であるか。また研究目的を達成するため、研究計画は十分練られたものになっているか。
- ・ 研究計画を遂行する上で、当初計画どおりに進まないときの対応など、多方面からの検討状況は考慮されているか。

- ・研究経費は妥当なものか。
研究経費については、次のような点についても留意する。
(a)研究経費の内容は妥当であり、有効に使用されることが見込まれるか。
(b)設備備品費等は研究計画遂行上、真に必要なものが計上されているか。
(c)設備備品費が50%を超えて計上されている場合には、研究計画遂行上有効に使用されることが見込まれるか。
- ・これまでの研究業績等から見て、研究計画に対する高い遂行能力を有していると判断できるか。

③ 未来のNTTにもたらす貢献

- ・潜在的可能性も含め、研究成果が未来のNTT事業に貢献し得るか。

<評点基準>

| 評点区分 | 基 準 |
|------|-----------|
| 5 | 非常に優れている。 |
| 4 | 優れている。 |
| 3 | 十分である。 |
| 2 | やや不十分である。 |
| 1 | 不十分である。 |

※なお、③については、以下の評点基準により評定を付すこととする。

<評点基準>

| 評点区分 | 基 準 |
|------|--------------|
| 5 | 貢献が期待できる。 |
| 3 | 貢献できる可能性がある。 |
| 1 | 貢献できる可能性は低い。 |

【総合評点】

上記の評点要素に関する評価結果を参考に、下表の基準に基づき5段階評価を行い、総合評点を付す。

| 評点区分 | 基 準 |
|------|-----------------------------------|
| 5 | 非常に優れた研究課題であり、最優先で採択すべきである。 |
| 4 | 優れた研究課題であり、積極的に採択すべきである。 |
| 3 | 優れた研究内容を含んでおり、採択してもよい。 |
| 2 | 採択するには研究内容等に不十分な点があり、採択を見送るべきである。 |
| 1 | 研究内容等に問題があり、採択に値しない。 |

(5) 秘密保持

審査者は、書面審査及びヒアリング審査において知り得た情報を第三者に漏えいしてはならない。

(6) 研究経費の配分等

研究経費の配分は各審査の結果に基づき、合議により決定する。

なお、評価コメント等を研究代表者に送付する。

II 中間評価及び終了課題の評価について

評価実施時期及び評価方法の詳細については、研究代表者宛て別途通知する。